

# 福祉行政 課題語る

施設運営の  
大原さん 札幌広域圏首長懇で 当

【当別】石狩管内8市町村の首長が一堂に会する「札幌広域圏首長懇談会」が27日、町内金沢の北海道医療大で開かれた。高齢者や障害者の福祉施設を運営する社会福祉法人「ゆうゆう」(当別)の大原裕介理事長(35)が、これまでの取り組みや現在の福祉制度の課題について講演した。

大原さんは北海道医療大在学中、学生ボランティアの拠点の立ち上げに携わ

り、障害児の一時預かり活動を始めた。卒業後の2005年にNPO法人を、13年に社会福祉法人を設立した。現在は障害者が働くレストランやカフェ、高齢者の介護予防を目的にした農園、障害者のグループホームなどを運営している。

講演では「町内に車いすのまま入れる高齢者用の浴室はあったが、車いすの女子中学生は制度の壁があり、すぐには利用できなかった。広大な北海道では障害や高齢、子育て支援など制度の垣根を越えて運用する必要がある」と指摘した。



現在の福祉制度の課題について管内8市町村の首長に解説する大原さん(右奥)

講演後の懇談で三好昇江別市長は「縦割りの行政が動きやすくなるにはどうしたらいいか」と質問。大原さんは「民間の機能を活用するなどして、高齢者も障害者もワンストップで相談できる窓口を設けることが風穴になるのでは」と話した。

(上野香織)